

平成22年2月1日

第71号

関東の^も森林^りから



関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25
TEL.027-210-1158

<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/>



渋峠より浅間山を望む（群馬県六合村）
（撮影者：吾妻森林管理署 河西 里奈）

美しい^も森林^りづくり
森づくり・人づくり

高尾森林センター

私の視点
「温故知新」の森づくり

新潟県胎内市長 吉田 和夫氏



森づくり・人づくり

高尾森林センター

高尾山（標高599^米）へは、新宿駅から高尾山口駅まで約1時間、片道370円で来ることが出来ます。また、ミシュランの三つ星観光地に選ばれたこともあって、今、大勢の登山者で賑わっています。

高尾山には約1,600種の植物が自生しているといわれ、また、ムササビを始めとする多種多様な動物も生息していることから年間を通じて楽しむことができます。遊歩道も1号路から6号路、稲荷山コース、いろはの森などが整備されています。このため、多くの人が普段の喧嘩から離れて楽しんでいきます。しかし、登山者が増えることによって問題点も出てきています。トイレなどの施設関係もありますが、一番の問題は登山者のマナーやモラルの低下です。高尾山では、東京神奈川森林管理署で依頼している森林保護員「グリーン・サポーター・スタッフ」の方々が保護巡視活動をされていて、道に迷われた方の案内や登山道を外れてい

る方への指導などを行っています。これらの活動を通じて得た情報は、山野草の開花状況などを含めて、当センターでも把握し、業務に活用しています。

高尾森林センターには毎年十数校の小学校から「森林教室」の依頼があります。最近の子ども達は森に行つて遊ぶ、



森林の大切さなどを講義



スギの間伐体験

ということがほとんどありません。この子どもたちに森林の大切さ、森林の楽しさなどを伝えることも当センターの大きな使命の一つであると考え積極的に取り組んでいます。

森林教室は、学ぶこと（講義）、体験すること（間伐など）、自然に触れること（自然観察）、物を作ること（木工体験など）をどう組み合わせるか、職員の配置なども考え担当の先生と相談しながら実施しています。

講義は30分程度ですが、最近はいンターネットの普及などによって一人一人の知識に偏りがあります。ある小学校で大気を構成する元素の質問をしたところ、「窒素」「酸素」「アルゴン」と次々に答えられる子どもがおり、他の子どもたちは話に

ついてこれないというようなこともありましたが、このようなことも考えながら、より多くの子どもが理解できるように、できるだけ易しい言葉で話すようにしています。

また、当センターが平成7年度から行っているイベントに「森林カレッジ」という年4回の講義と森づくりを体験するものがあります。今年度の「森林カレッジII」は、東京農業大学宮林教授を講師として「森に学ぶ森づくり・ことづくり・人づくり」をテーマに実施しました。

当センターで行っているイベントへの参加人数は決して多いものではありません。しかし、継続して行うことでより多くの人の理解を得て、「美しい森林」を未来の子どもたちにつなげることに考えると考えています。



間伐材を利用したベンチを作成



1月の「赤谷の日」活動

赤谷プロジェクトでは、毎月、第一土・日曜日を「赤谷の日」と名付け、「いきもの村」を活動拠点として様々な調査研究活動を行っています。



アニマルトラッキング

1月は、9日(土)・10日(日)の両日、約20人が参加して、※アニマルトラッキングや前回の活動で火入れした炭の搬出などを行いました。アニマルトラッキングでは、雪の上に残った動物の足跡を観察することにより、そこにどのような種類の動物がいるのか、また、どのような行動をしているのかを調査しました。冬の間、動物達は冬眠しているという印象がありますが、ノウサギ、イノシシ、ニホンカモシカなどは、



ニホンカモシカもいました。

冬でも盛んに活動していることが観察できました。同じ動物でも、歩行と走行では、歩幅や足跡の残り方が異なり、雪の上に残された僅かな痕跡から動物達の様子を想像しています。また、探偵にでもなった気分になりました。

また、今年の「赤谷の日」の年間活動計画についても話し合わせ、ホンドテンのモニタリングやブナなどの豊凶調査など従来の活動については今後も継続的に実施していくとともに、炭焼きなどを通じて積極的に地域の人達と活動していくことが確認されました。

※ アニマルトラッキングとは、足跡、食痕、フンなど、動物の残した痕跡を元にその動物の種類や生態を読み取ること(行動を推測すること)。

植生管理ワーキンググループ

赤谷プロジェクトでは、「赤谷の森」の潜在自然植生と、生物多様性の復元を目指す取り組みをしています。このため、植生管理や猛禽類モニタリングなど7つのワーキング

グループが設置され、赤谷プロジェクト地域協議会、(財)日本自然保護協会、関東森林管理局に加え、それぞれの分野の専門家を交え、様々な議論や検討が進められています。

1月15日(金)に開催された植生管理ワーキンググループでは、「赤谷の森」の代表的な潜在自然植生のタイプを「ブナ・ミズナラ林」「クリ・コナラ林」「溪畔林」の3タイプと考え、それぞれの森に復元していく際、必要となる基礎データの収集や調査研究を進めるため、試験地を設定することが検討されました。

設定に当たっては、当該箇所的人工林が1代目か2代目か、周囲の広葉樹からの距離、既に人工林の中に生育している広葉樹の混交率など、条件の違いでどのような差が出てくるかも調べていく方針です。試験地設定後は、モニタリングを進め、植生復元のメカニズムを解明できればと考えています。(赤谷森林環境保全ふれあいセンター)



潜在自然植生の復元に向けて議論

森林造り講演開催

昨年12月15日(火)・16日(水)の両日、宮脇昭横浜国立大学名誉教授(植物生態学)による潜在自然植生を活用した森林再生の手法について講演と現地調査が行われました。

講演は、例として土地本来の潜在自然植生であるシイ、タブ、カシなど複数の樹種のポット苗を混ぜ、密植することで驚異的に生長を促し保育期間を大幅に短くした「宮脇方式」の森林造成の仕組みとブラジルや中国をはじめ日本各地での実績を数枚のスライドを用いながら、身振り手振でユーモアを交え熱心にお話しいただきました。

翌日は吾妻森林管理署の斜面崩壊現場で、樹種選定や植付け方法について指導していただきました。この現場は、来年度、宮脇方式により治山工事で植栽を実施することとしていきます。(治山課)



熱のこもった講演に聞き入る職員

私の視点

「温故知新の森づくり」

新潟県胎内市長 吉田和夫

日本一のイベント

胎内市には日本で最大規模と言われるイベントがあります。それは自然を舞台にした星空イベント「胎内星まつり」です。1984年に第1回が胎内平で開催されて以来、今では県内外から2万人を超す星空ファンが詰めかけます。会場の澄み切った空気の背景には良好な森林地帯が広がり、その周辺には自然環境を活かしたスキー場、リゾートホテルなど公営の施設が整った観光地「胎内リゾート」があります。

国有林の活用

当市は、広大な国有林、民有林を有しており、磐梯朝日国立公園、胎内・二王子県立自然公園に指定されている面積も非常に広く、胎内川流域には良好な自然状態を保つブナ林が多くあり、新潟県を代表するブナ林の一つにあげられています。これらの環境が相まって多くの野鳥が観察される地でもあり、昭和62年には常陸宮殿下、同妃殿下をお迎えして「全国野鳥保護の集い」が開催されました。



国有林内にスキー場のゲレンデとして利用できる斜度を有していたことから、この土地を活用し昭和40年に直営の「国設胎内スキー場」を開設しました。当初はグレンデ一面、リフト1基、ロッジ1棟というささやかなスタートでしたが、年を追うごとにファンが増え、それに伴って本体も成長をつげました。現在は総面積52ヘクタールの一大スキー場として偉容を誇っています。シーズン中には、当市の全小学校でスキー教室を行っているほか、市外校からもご利用いただき、周辺地域のウィンタースポーツの振興を図っています。

また、市民の安心と安全を守るため、今年度から各世帯に戸別受信機の配備と主要箇所には屋外拡声子局を設置し、防災行政無線の運用を開始しました。このシステムの中継局としても国有林を利用させていただいております。

災害から復興・緑の2大祭典を開催

昭和42年の羽越大水害では市内至る所の山地が崩壊し山林の被害も甚

大でありました。このため、各沢々に治水砂防ダムを建設し、山林の保全をはじめ、地域の防災にも当たりました。

昭和47年5月には、昭和天皇・皇后両陛下のご臨席を仰ぎ、第23回全国植樹祭が胎内平を会場に挙行されたことを契機に、緑化に対する意識高揚が図られ、造林事業が積極的に推進されました。そして、昭和53年には、県内で初めて緑の少年団が結成されるなど、愛林緑化思想が広く浸透しました。

昭和56年には、皇太子殿下・同妃殿下（今上天皇・皇后両陛下）をお迎えして全国育樹祭、平成14年は、新潟県緑の百年物語フェスティバルが胎内平で開催され、地球環境を支える緑の大切さが啓発されました。



緑の学校 枝打ち体験

新しいスタイルの森づくり

現在は、企業と地域の協働による新しいスタイルの森づくりとして「緑の募金による企業の森づくり活

動」を行なっています。この取り組みは当市が県内第1号であり、今後、ここで行われる森づくり活動が緑化推進の良いモデルとなり、他の地域へも拡大していくものと期待を寄せております。

自然が活きる、人が輝く、交流のまちを目指す胎内市。美しい自然と多様な農業生産などを活用した都市と農村との交流事業でありますグリーンツーリズムを広める一方、過去の災害から見事復興を成し遂げ、緑の樹海に生まれ変わった姿が後世に引き継がれ、「温故知新」の精神で森林が守られることを願ってやみません。



企業の森づくり活動協定締結の記念にエゴノキを植樹



緑の少年団による募金活動

森林官からのあたより

茨城森林管理署 ^{やさと}八郷森林事務所 森林官 友部 淳子



筑波山遠景

「サァーサァーお立会い、御用とお急ぎでない方はゆっくり聞いておいで、見ておいで・・・」は、ご存知「ガマの油売り」の口上の一節です。

口上の中に出てくる筑波山を中心とした国有林が私の管理する^{やさと}八郷森林事務所及び^{まかべ}真壁森林事務所の区域です。そうそう、余談ですが、男性コーラスグループが歌う「筑波山麓男性合唱団」の、いろんなカエルの鳴きまねにもガマガエルが出てきます。ちなみに、四六のガマは、ニホンヒキガエル（ガマ）のことで、詳しくは判りませんが、前足と後ろ足の指の形状から四六の語源があるようです。

当森林事務所は、その筑波山（標高877[㍎]）がある茨城県の南部に位置し、約3,700[㍎]（八郷・真壁）の国有林を管理しています。筑波山は、八溝山地の南端部にあり、低い山ですが、関東平野に突き出たその姿は、「西の富士、東の筑波」と言われています。

また、良質の御影石が採れる^{かばさん}加波山（709[㍎]）やパラグライダーの愛好者が多く集まる^{わがくにさん}吾国山（518[㍎]）周辺の山々があり、頂上の男体山や筑波山神社本殿がある女体山からは、関東平野の一部である^{にい}新治・^{はりいなしき}稲敷台地や^{すいごう}水郷平野が広がっています。



複層林を空から

森林の概況は、人工林率が約60%で、スギ、ヒノキが多く植栽されています。筑波山の東側には、景観に配慮した森林施業として「筑波山複層林試験地」が約35[㍎]設定され、森林技術センターがその調査・研究を行っています。

また、筑波山北側の国有林内には、以前、本紙上で紹介しましたが、昭和9年に初めて全国的な植樹行事が行われた「植樹祭発祥の地」があります。

東京近郊からアクセスが良いことから、観光や登山に多く訪れる筑波山系の山々には、登山道が多いので、観光シーズンは、山火事防止などのパトロールが多く必要となります。登山する方の中には、歩きながらの喫煙者もいますので、山火事用心や植物の盗採防止のための呼びかけなどを行っており、年々、登山者のマナーも良くなっていると感じます。

今は、森林官1人であり、広範囲のパトロールは大変で責任の重さを感じます。

全国的にも有名なこの筑波山周辺の国有林は国民の財産です。大切に管理していきたいと考えています。



奇岩のひとつ(ガマ石)



植樹祭発祥の地と記念碑

管内の百名山 「苗場山」



山頂に広がる高層湿原

苗場山(2,145㍍)は、上信越高原国立公園内の東側、新潟県と長野県の県境に位置しています。

苗場山の特徴は、山頂に広がる10平方キロメートルにも及ぶ高層湿原の存在です。湿原には数百をこえる池塘(小さい沼)があり、ヤチスゲ、ミヤマホタルイなどの植物が生えています。その景観がまるで「神様が苗を植えた場所」のようであることから「苗場山」と名付けられました。また、山頂からは谷川連峰、妙高山などの上信越の山々をはじめ、遠くに佐渡島を展望することもできます。

登山ルートは複数あり、^{はらいかわぐち}祓川口(和田小屋)からの登山ルートが一般的です。登山コースからは、オオシラビソの原生林やベニサラサドウダン等の高山植物を多数観察することができます。他には、秘湯として知られる天然露天風呂：赤湯温泉を経由するコース、平家の落人伝説で知られる秋山郷から入る小沢コース、小松原湿原を経由するコースがあります。

また、苗場山の周辺地域は、ロープウェイ、スキー場が整備され、秋は紅葉鑑賞、冬はスキーと、登山だけでなく四季を通じて自然を楽しめる一大観光エリアとなっています。



神楽ヶ峰より見た苗場山頂



かぐらスキー場

この地域は大変雪の多い所であり、雪の多い年は7月中旬頃まで雪が残ることもあります。多雪地における植生調査地としても重要で、中越森林管理署では苗場山の中腹にブナ林の試験地や施業指標林を設定し、森林総合研究所、大学が中心となり40年前から調査研究が進められています。

当署では、森林保護員(グリーン・サポート・スタッフ)によって^{たいらっぴょうやま}平標山の保全管理活動を行っていますが、平成21年度からは、苗場山にも範囲を広げて活動しています。平成22年度には、登山コース周辺に樹名板を設置し、苗場山の素晴らしい自然を伝えるとともに、登山者へマナーの大切さを呼びかけていきたいと思ひます。

(中越森林管理署 酒井 文子)

発行所 関東森林管理局
編集 総務課
TEL(027) 210-1158
FAX(027) 210-1159

申込締切 平成22年2月18日(木)
詳細は、「こちらを」ご覧ください。
<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/takao/pdf/sousyunpdf.pdf>

実施日 平成22年3月3日(水)
対象・定員 18歳以上で健康・健脚な方30名
参加費 1,000円(交通費別)
申込先 高尾森林センター
〒193-0844 八王子市高尾町2438ノ1
電話番号 (042) 663-6689
申込方法
往復ハガキに参加希望者全員の郵便番号・住所・氏名・年齢・電話番号、返信名の宛名を記入のうえ、「早春ハイキング係」あてにご応募ください。



高尾山で早春ハイキング
行程 小沢沢景信山小仏城山
高尾山 9.4km

参加者募集